

東日本大震災 兵庫県への支援

一年の記録

兵庫県

兵庫県では、東日本大震災の被災地の早期復旧・復興に向け、阪神・淡路大震災の被災経験を踏まえ、その持てる力を結集して、迅速かつ積極的に切れ目のない支援を行ってきました。

これまでの兵庫県の支援活動の全容や派遣職員が支援活動を通じて得た経験・教訓などを総括し、近い将来の発生が懸念される東海・東南海・南海地震などの大規模災害における被災自治体への効果的な支援や本県が被災した場合の他自治体等からの支援に対する円滑な受援に生かすため、記録誌を取りまとめ、県ホームページなどで公開しました。

今後の災害の備えとして皆様のお役に立つことができれば幸いです。

【記録誌の構成】

- 第一章 東日本大震災の被害概要
- 第二章 東日本大震災被災地支援体制
- 第三章 東日本大震災被災地支援体制
- 第四章 東日本大震災被災地への支援資料編

兵庫県ホームページアドレス

<http://web.pref.hyogo.lg.jp/>
<http://k41/faq/higashinohon1.html>



がんばろう東北ロゴ

火災予防啓発ビデオ 「地震火災から命を守るために」の制作・発表

消防庁



消防庁において、火災予防啓発ビデオ「地震火災から命を守るために」が制作されました。

このビデオの内容は、住宅内において実際に発生した製品・器具及び可燃物の転倒・落下、通電時の出火等、地震に起因して発生した火災を再現する実験を行い、火災発生メカニズム及びその予防方法等について、映像と専門家



「ひょうごの消防団」の更新について

県消防協会事務局

本協会のホームページの「ひょうごの消防団」のページは、平成一三年にホームページを開設して以来、皆さまにも積極的にご活用いただいているところですが、このページでは、六二ある県内の消防団ごとに、ページを作成することで、広く一般の方々に消防団をPRすることを目的としています。

現在、各市町消防団事務局を通じて、各消防団のページの更新・新設の依頼をしています。ページの新設・更新を希望される消防団はPR記事や写真等を消防協会事務局までご提供ください。(団独自でページを

開設されている場合は、リンク先をお示しください。)

今後とも、当ホームページを積極的に活用していただき、消防団のPRに努めていただきますようお願いいたします。また、各消防団におけるご意見、情報提供等は随時受け付けておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

兵庫県消防協会ホームページアドレス
<http://www.hyogoshoubou.jp/>

兵庫県が阪神・淡路大震災の教訓を生かした助け合いの制度

兵庫県住宅再建共済制度

フェニックス共済

もうご加入いただきましたか？

皆さん、「フェニックス共済」への加入はお済みですか？この制度は兵庫県が阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、創設したものです。平成21年8月の台風第9号の豪雨災害では、制度創設以来、初給付を行い、被災加入者から住宅再建に役立ったとの喜びの声が届いています。いざというときのわが家の安全・安心のためにも、ぜひご加入ください。

【共済負担金】

住宅再建共済制度
年額 5,000 円

住宅所有者が加入



自然災害

【共済給付金】

給付金	給付対象	給付額
再建等給付金	全壊・大規模半壊・半壊で建替・再建	600万円
補修給付金	全壊で補修	200万円
	大規模半壊で補修	100万円
	半壊で補修	50万円
居住確保給付金	全壊・大規模半壊・半壊で補修せず賃貸住宅に入居した場合等	10万円

(注) 1 県外で再建・購入の場合は給付額は1/2
2 賃貸住宅等は、県内での再建等のみに給付し、居住安定確保給付金は給付対象となりません。

【共済負担金】

住宅再建共済制度
年額 15,000 円

住宅所有者、賃借人が加入

自然災害

【共済給付金】

給付金	給付対象	給付額
家財再建共済給付金	住宅が全壊で家財を補修・購入	50万円
	住宅が大規模半壊で家財を補修・購入	35万円
	住宅が半壊で家財を補修・購入	25万円
	住宅が床上浸水で家財を補修・購入	15万円

(注) 住宅再建共済制度加入者は、共済負担金年額1,000円/戸となります。

※ マンションの共用部分について、管理組合が1棟単位で加入できる制度もございますので、下記までお問い合わせください。

わがまちの団長さん

186

「温厚篤実」

豊岡市豊岡消防団

吉岡 忠次朗



豊岡市のめざましまちの将来像は、「コウノトリ悠然と舞うふるさと」です。コウノトリをシ

地区通信

佐用町消防団はひとつ

佐用町消防団

佐用町消防団は松田消防団長を筆頭に四二分団、団員数一〇九五人で組織され、住民の五・六％が消防団員で防災の要として活躍しております。

団の信条は、松田団長が口癖のように言われております「佐用町消防団はひとつ」であります。

これは、佐用郡四町の合併とともに消防団も合併し、それぞれの歴史ある団活動から新たに佐用町消防団として新たな一歩を踏み出そうとしたとき、消防団の原点に返り、地域住民の生命と財産を守り、安全と安心を堅持するためには「団員各位の確固たる意思と決意、そして団としての統一した信念が必要である」ということから発しております。

心ひとつとなった消防団の今年度の活動は、防火パレード・中継訓練、礼式訓練、水防講習

た。

吉岡団長は、非常に真面目で部下想いの温厚な性格の方です。副団長時代には将来の分団の事を考え辞表を提出されましたが、頑として受け付けてもらえなかったというエピソードをお持ちです。この行動は、自らの事より他の人の事を念頭におかれている現れであり、多くの団員から尊敬を集める理由ではないかと思えます。

会に多大なる貢献をされておられます。吉岡団長が栽培されている「豊岡ぶどう」はひょうご安心ブランドに認定されており、大変、美味しい葡萄です。是非、機会があればご賞味ください。団長に就任されてから一年が経過しました。昨年は、本当に激務の一年であったことと思います。今後も、健康には十分ご留意いただき（特に腰には）、豊岡市、また豊岡消防団の益々の発展にご尽力いただきますようお願いいたします。

消防団今昔

88

団員の安全を求めて

朝来市消防団副団長

北垣 利晃



私は、昭和五五年四月一日に旧朝来町消防団に入団し、本年度三二年の団歴となりました。現在は朝来郡四町が合併し、朝来市消防団が結成され、旧町単位の支団制をとり活動を行っております。

私の入団のきっかけは旧朝来町役場に奉職し、そのまま現場職員で構成されていた「特設分

心配蘇生法、AEDの使用方法、止血の方法、避難の誘導方法等々を考えています。仕事の傍らこれらの技術習得に費やす時間は大変貴重ではあ

われら若手消防団員

48

洲本市消防団

米田 瑞穂



私が洲本市消防団に入団したのは、昨年の四月のことです。入団の動機は、「これまで生まれ育ってきた地元のために、少しでも恩返しをしたい。」という気持ちでした。

しかし、入団を控えた三月一日に、あの東日本大震災が

により無残に破壊された消防車両を目の当たりにした時に痛切に感じました。殉職された団員は住民に避難を呼びかけられたことでしょうか、無念にも家族の元には帰ることはできなかつた。こうしたことが二度とないように団員の安全を確保することが幹部としての務めと感じました。

昨今の災害は予期せぬことばかりで現場対応が求められますが、災害は必ずやってくる。その気持ちで日々訓練や、機器の整備、地理の把握等々、工夫と知恵をはたらかせながら地域防災に取り組むことが大切と考えています。団員確保や団員のサラーマン化が進み地域に根ざした活動が難しくなりつつありますが、「郷土を愛する気持ち」は普遍のものであります。これまでに得た経験を大切に、地域住民の「絆」を大事にし、消防団活動に精励してまいります。

発生しました。それからは「もし洲本市が同じような状況に陥ったとき、今の自分は何かできるのだろうか？」という不安が頭をよぎりました。以降、そのような思いを持ったまま消防活動を続けていきましたが、あることがきっかけで私の気持ちが大きく変わりました。

昨年の八月、仕事の関係で、特に被害の大きかった南三陸町に派遣されることになりました。現地では、被災された方の住居の手配や補助申請の受付などを手伝わさせていただきました。その際に、多くの方から「遠いところから手伝いに来てくれてありがとう」という感謝の言葉をいただきました、どのような形で

も、被災者の方々の力になれるのだと実感しました。それ以来「今の自分にできることを一生懸命する」という事を心掛けるようになり、消防活動を続けていくことについて、前向きに考えられるようになりました。現在はまだ半人前ですが、今後多くの知識や技術を身に付け、地域の防災に貢献できるように消防団員に、一日でも早くなりたいと思います。

- ・操法最適ホース：コンペVシリーズ
- ・小型動力ポンプ：ラビットダイヤモンドフジシリーズ
- ・小型動力ポンプ積載車(標準型・全自動型)
- ・消防ポンプ自動車(モリタ)
- ・消防用資機材全般



西垣消防器具製作所

669-5213 兵庫県朝来市和田山町玉置461

TEL:(079)672-3131

FAX:(079)672-3132

E-mail: fp-nishigaki@eagle.ocn.ne.jp



故郷を歩く

「網干の町」をぶらり散策

姫路市網干消防団 団長 春木 壽朗

昔、網干の地は、「宇須伎津」と呼ばれていました。

「津」は港で、港にあるお社なので「津の宮」と呼ばれるようになり、里人は、漁師や海女として魚や貝、海藻などを取って暮らしていました。

ここに「放生会」（生き物を放つ儀式）が伝わり、漁師や海女たちは、この日一日は、網を干して「津の宮」にお参りし、日ごろの殺生のお詫びと感謝の気持ちをおこめて、お祭りを行ったことから、いつしか、里人たちは「網干し祭り」と呼ぶようになりました。

これが「網干祭り」のいわれで、地名も「網干」と呼ばれるようになりました。

「網干」は、姫路市の南西部、一級河川「揖保川」の河口に位置する町です。

この地は、古くから揖保川舟



加藤家住宅長屋門



山本家住宅

伝統的な建物が数多く残されており、往時の港町等を偲ばせています。

江戸時代に「網干三ヶ村」と呼ばれた「余子浜村（横浜）」、「興浜村（奥浜）」、「新在家」は、それぞれ支配が異なり、龍野藩と讃岐丸亀藩の陣屋が置かれていました。

龍野藩領新在家村には、藩の蔵屋敷と藩邸が置かれ、興浜村と余子浜村は、旧丸亀藩網干陣屋跡があり、現在、当時の門が復元されて、歴史資料館となっています。

この陣屋跡の周辺には、本瓦葺きの古い家屋や漆喰に塗り込められた土蔵などが集中し、町並みらしいところです。

「網干」の有力商人の屋敷は、網干区余子浜と網干区興浜のそれぞれ揖保川沿いに多く残されています。

余子浜の揖保川沿い、船渡八幡神社の向かいに建つ「加藤家」は、天領の蔵元として身分は商人でありながら、名字帯刀が許された家柄でした。現在もこの「加藤家」の住宅は、当時の建物そのまま保存されており、



加藤家住宅主屋

「国登録文化財」、「姫路市景観重要建築物」に指定されています。

また、興浜の揖保川沿いに残る丸亀藩の陣屋近くに異形を呈する、木造三階建ての屋敷があります。

この屋敷は、明治初年に建てられ、大正時代には、「網干銀行頭取」や「網干町長」を務めた「山本家邸」で伝統的な日本建築と洋風建築が融合し、黒塗りの望楼（三階部分）は、この建物のシンボルとなっており、「姫路市景観重要建築物」に指定されています。

また、この付近は、車一台がやっと通れる小路も多く存在し、当時の趣が残っています。

この地区と東側に接する新在家地区の境界には、小川が流れ、一日二回通行を許可される境橋という小さな石橋が唯一の往来手段だったといわれていますが、現在は、道路拡幅等が行われており、残念ながら小川は無くなっています。橋は道端に移設され、名残を留めています。

一方、新在家地区は、一部が商店街となっていますが、厨子二階の伝統的な商家や虫籠窓がある旧家が現在も残っています。

この町並みの北側は、揖保川の支流の網干川に接し、現在、堤防はコンクリートで固められ

平成二四年度消防団員安全装備品等助成事業及び消防団員公務災害防止研修事業の実施について

兵庫県消防課

消防団員等公務災害補償等共済基金から平成二四年度においても、消防団員の公務災害防止に安全装備品整備等助成事業及び公務災害防止研修事業を実施する旨通知がありました。

各種事業要領については次のとおりです。

1 安全装備品整備等助成事業

①趣旨
消防団員の活動に係る安全装備品の整備、健康診断の実施等を実施する市町に対して

助成金を交付する事業
②助成メニュー
別表に掲げるもの
③助成条件
新規の整備等事業を対象とし、更新は対象外
④助成金額
一〇〇万円を上限

2 公務災害防止研修事業

ア 安全管理セミナー
①趣旨
消防団員の安全管理と健康管理の重要性の認識及び理解を促進し、消防団員全体への普及家発を図る
②助成経費
参加者が一〇〇人以下
二〇万円まで
参加者が一〇〇人以上
三〇万円まで
イ S-K-Y-T研修
①趣旨
消防団活動時における危険を予知するとともに、これに適切に対応できる能力を養成する
②助成金額
三〇万円を上限



油の積み出し港のあったところで、現在でも「蔵」の一部が残っています。

また、新在家に置かれた龍野藩邸の遺構は残されてはいませんが、現在の網干小学校がその場所です。

この小学校の南側に「ダイセル化学工業（株）網干工場」がありますが、その敷地内には、明治四十一年、日本セルロイド人造絹糸（株）として設立された当時、セルロイドの技術指導のためにイギリスやドイツなどから招いた技術者の宿舎として建てられた洋館があり、現在も当時の面影を残しており、「姫路市景観重要建築物」に指定さ



ダイセル異人館

ウ 健康管理セミナー
①趣旨
消防団活動時に発生する脳血管疾患及び虚血性心疾患の公務災害防止を図るための健康管理知識を習得する
②助成金額
二〇万円を上限

団員一人一人の安全確保と事故防止に、ぜひ当基金が実施する事業をご活用ください。
なお、これらの事業の詳細については、当基金のホームページ（<http://www.syouboukikin.jp>）をご参照ください。

【事務局からのお知らせ】
リニューアル作業のため「兵庫消防」六月号は休刊させていただきます。

編集後記

吹く風が心地よい季節となつて参りました。皆様いかがお過ごしでしょうか。
三田市消防大会を取材させていただきました。近年各地で増えつつある女性消防団員ですが、三田市においても女性消防団が発足され、新たな風が吹き始めました。新たに入団された方々のご活躍をお祈りいたします。
そのほか、各地区からも多数の寄稿いただき、ありがとうございます。
なお、次号より各コーナーを刷新し、大幅なりニューアルを予定しております。県・県協会・各支部の事業や消防・防犯情報の充実した機関紙を目指してまいりますので、今後ともご愛顧のほどよろしくお願いいたします。